日本国特許庁(国際調査機関)

出願人代理人 石川泰男 様	REC'D 1 0 MAR 2005 WIPO PCT
あて名 〒 105~0014 東京都港区芝二丁目17番11号 パーク芝ビル4階	PCT 国際調査機関の見解費 (法施行規則第40条の2) 〔PCT規則43の2.1〕
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	発送日 (日.月.年) <b>08.3.</b> 2005
出願人又は代理人 の咨類記号 P01-04088W0	今後の手続きについては、下記2を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/000349 (日.月.年) 14.	優先日 01.2005 (日.月.年) 19.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl7 H05B33/04	
出願人(氏名又は名称) パイオニア株式会社	
1. この見解書は次の内容を含む。   X 第 I 欄 見解の基礎	
<ul><li>● 第Ⅱ棚 優先権</li><li>● 第Ⅲ棚 新規性、進歩性又は産業上の利用可</li></ul>	能性についての見解の不作成
<ul><li>■ 第IV棚 発明の単一性の欠如</li><li>■ X 第V棚 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する</li><li>それを裏付けるための文献及び説明</li></ul>	5新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
第VI棚 ある種の引用文献 第VI棚 国際出願の不備	
第W棚 国際出願に対する意見	
2. 今後の手続き 国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際語	周査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その に国際調査機関の見解費を国際予備審査機関の見解費とみな 見解費は国際予備審査機関の最初の見解費とみなされる。

見解符を作成した日 21.02.2005		
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP)	特許庁審査官(権限のある職員) 里村 利光	2 V 9 3 1 4
郵便番号100-8915 東京都千代田区段が関三丁目4番3号	電話番号 03-3581-1101 内	線 3271

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

第1概 見解の基礎		
1. この見解書は、下	『記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。	. •
□ この見解書は、 それは国際調3	、 語による翻訳文を基礎として作成した。 査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の言語である。	
2. この国際出願で開 . 以下に基づき見解	別示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、 好客を作成した。	-
a. タイプ	<b>配列表</b>	
	□ 配列表に関連するテーブル	·
b. フォーマット		
. •	コンピュータ読み取り可能な形式	
。 短 山 昨 479	山岡時の国際山岡に会まする	•
c. 提出時期 	□ 出願時の国際出願に含まれる	•
·	□ この国際出願と共にコンピュータ院み取り可能な形式により提出された	
	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された	
		alma almana
3.   さらに、配列	『衷又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追	加して提出し
た配列が出庭	列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追 関時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳	
た配列が出庭		
た配列が出庭 あった。		
た配列が出庭 あった。 4. 補足意見:	<b>顕時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が
た配列が出庭 あった。 4. 補足意見:	<b>頃時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が
た配列が出庭あった。 4. 補足意見:	<b>頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が
た配列が出席あった。 4. 補足意見:	<b>預時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が
た配列が出席あった。 4. 補足意見:	<b>預時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が
た配列が出庭 あった。 4. 補足意見:	<b>頂時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が
た配列が出席あった。 4. 補足意見:	<b>預時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳</b>	述書の提出が

#### 国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2005/000349

第、	第V綱 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、 それを裏付る文献及び説明						
i.	見解					·	٠
	新規性(N)	請求の範囲 請求の範囲	The second secon	·			有 無
	進歩性(IS)	請求の範囲					有 無
	産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 請求の範囲		•.	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		有 無

### 2. 文献及び説明

文献1: JP 2003-288983 A (半導体エネルギー研究所) 2003.10.10,請求項3乃至4、段落【0071】~【007 2】,【0209】

文献2:JP 11-26155 A (三井化学株式会社) 1999.01.29,請求項1、段落【0012】~【0013】

## 請求の範囲1乃至6について

先の国際調査報告において引用された上記文献1の上記指摘箇所には、有機化合物層の劣化を防止するために、該化合物層上に水素を積極的に含ませてなる酸化窒化珪素等の薄膜を例えば、プラズマCVD法で成膜する点が記載されている。

したがって、本発明における水素含有率に関する数値限定は、当該記載に基づき、進歩性を有しない。

## 請求の範囲1乃至6について

先の国際調査報告において引用された上記文献2の上記指摘箇所には、水素濃度が50原子%以下のダイヤモンド状炭素膜が形成されてなるエレクトロルニネッセンス素子用保護フィルムが記載されている。

したがって、本発明は当該記載に基づき、新規性及び進歩性を有しない。

発信人 日本国特許庁 (国際調査機関)

出願人代理人	MECU 10 MAR 2005
石川泰男	WIPO
様	PCT
あて名	PCT
〒 105-0014 東京都港区芝二丁目17番11号 パーク芝ピル4階	国際調査機関の見解書 (法施行規則第40条の2) (PCT規則43の2.1)
	発送日 (日.月.年) <b>08.3.2005</b>
出願人又は代理人 の咨類記号 P01-04088W0	今後の手続きについては、下配2を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP2005/000349 (日.月.年) 14.	優先日 01.2005 (日.月.年) 19.01.2004
国際特許分類 (IPC) Int. Cl7 H05B33/04	
出願人 (氏名又は名称)。 パイオニア株式会社	
	•
1. この見解書は次の内容を含む。    X 第 I 欄 見解の基礎   第 I 欄 優先権   第 II 欄 優先権   第 II 欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可   第 IV 欄 発明の単一性の欠如	能性についての見解の不作成
X第V棚 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定するそれを裏付けるための文献及び説明	5新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、
第VI棚 ある種の引用文献	
第VI棚 国際出願の不備	
第四冊 国際出願に対する意見	
2. 今後の手続き	
国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際認	関査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国 で国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさ 見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。
	なされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日かる期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当5。
さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照で	すること。
3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を観	を照すること。
見解許を作成した日	<u>.                                    </u>
21. 02. 2005	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915	特許庁審査官(権限のある職員) 里村 利光
東京都千代田区段が関三丁目 4番3号	<b>電話番号 03-3581-1101 内線 3271</b>

第 I 柳 見解の基礎					
1. この見解掛は、下	・記に示す場合を除くほか、国際出願の首語を基礎として作成された。				
	、 語による翻訳文を基礎として作成した。 査のために提出されたPCT規則12.3及び23.1(b)にいう翻訳文の昏暗である。				
2. この国際出願で開 . 以下に基づき見解	月示されかつ請求の施囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、 好客を作成した。				
a. タイプ	配列表				
•	□ 配列表に関連するテーブル				
b. フォーマット	<b>一                                    </b>				
,	□ コンピュータ読み取り可能な形式 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・				
c. 提出時期 	□ 出願時の国際出願に含まれる □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □				
•	□ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された				
·	出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された				
	3. 🔲 さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出し				
	列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出し 国時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が				
た配列が出展					
た配列が出展					
た配列が出放 あった。					
た配列が出版 あった。 4. 補足意見:	<b>領時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				
た配列が出版 あった。 4. 補足意見:	<b>領時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				
た配列が出版 あった。 4. 補足意見:	<b>領時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				
た配列が出版あった。 4. 補足意見:	<b>国時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				
た配列が出版あった。 4. 補足意見:	<b>国時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				
た配列が出版あった。 4. 補足意見:	<b>預時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				
た配列が出版あった。 4. 補足意見:	<b>国時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出が</b>				

### 国際調査機関の見解書

国際出願番号 PCT/JP2005/000349

第V禰 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、 それを裏付る文献及び説明				
1.	見解		•	
	新規性(N)	請求の範囲 請求の範囲 <u>1-6</u>	有	
	進歩性(IS)	請求の範囲 請求の範囲 1-6	有 無	
	産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲 <u>1-6</u> 請求の範囲		

### 2. 文献及び説明

文献1: JP 2003-288983 A (半導体エネルギー研究所) 2003.10.10,請求項3乃至4、段落【0071】~【007 2】,【0209】

文献2:JP 11-26155 A (三井化学株式会社) 1999.01.29,請求項1、段落【0012】~【0013】

## 請求の範囲1乃至6について

先の国際調査報告において引用された上記文献1の上記指摘箇所には、有機化合物層の劣化を防止するために、該化合物層上に水素を積極的に含ませてなる酸化窒化珪素等の薄膜を例えば、プラズマCVD法で成膜する点が記載されている。

したがって、本発明における水素含有率に関する数値限定は、当該記載に基づき、進歩性を有しない。

# 請求の範囲1乃至6について

先の国際調査報告において引用された上記文献2の上記指摘箇所には、水素濃度が50原子%以下のダイヤモンド状炭素膜が形成されてなるエレクトロルニネッセンス素子用保護フィルムが記載されている。

したがって、本発明は当該記載に基づき、新規性及び進歩性を有しない。